

日本労働年鑑 第55集 1985年版
The Labour Year Book of Japan 1985

第一部 労働者状態

V 農家の状態と農民の生活

1 農家と農家人口

1 農家人口と農家数

農家人口と農家数

一九八三年一月一日現在の農家人口は、前年にくらべ一・三%減じ二〇八一万人となった。この農家人口の減少により総人口に占める農家人口の割合は前年の一七・九%から一七・五%に低下した。また、男女別にみた農家人口の割合は前年と同じく男子四八・七%、女子五一・三%であった(第41表)。

これと同じ「農業調査」結果により年齢別にみると、六〇歳以上の高齢者のみが引きつづき増加し、農家世帯の高齢化はさらに高まった。すなわち六〇歳以上の農家人口は前年比一・六%増加し四六八万人となり、総農家人口に占める割合は二三%となった。

八三年一月一日現在の農家数は四五二万戸で、前年比一%減少した。また、農家一戸当たり平均農家世帯員は前年と同じ四・六人であった。

経営耕地規模別農家数

第42表は都府県農家の経営耕地規模別農家の動向を示したものである。この表により八三年一月現在までの農家の階層構成の変化の特徴をみるとつぎのとおりである。

(1)農家数の減少傾向のなかで、三ha以上の農家層のみが前年比二・五%増加し一一万戸となった。この結果、この階層の全農家に占める割合は年々微増をつづけ二・五%となった。

(2)これまで微増していた二・五～三ha層農家は、前年と同じ八万三〇〇〇戸にとどまり、その割合も前年と同じく一・九%を維持した。

(3)二・五ha以下層の農家はいずれも減少した。

つぎに同じ資料により経営耕地の移動状況をみると、八三年一月現在、農業委員会の許可を得た借入、農用地利用増進法による借入のほか経営受託・請負耕作などによる借入地のある農家は一〇六万戸で前年にくらべ一・三%増加し、総農家数の二三%を占めた。他方、貸付地等のある農家数は八三年一月現在、六九万戸で前年にくらべ四・一%増加し総農家数の一五%を占めた。

専業別農家数

第43表は農家の専業別農家の動向をみたものである。これによると八三年一月一日の専業農家は前年にくらべ〇・五%減少し五九万六〇〇〇戸となったが、その減少率が総農家数のそれを下回ったため、全体に占める割合は、前年と同じ一三%であった。他方、兼業化はすでに七九年以降限界に達しつつあったが、八三年現在もその傾向はつづいている。

日本労働年鑑 第55集 1985年版

発行 1984年12月15日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月21日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1985年版(第55集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
